



国際ロータリー 第2660地区
2003～2004年度のための
地区協議会

ガバナー 井上 暎 夫
ガバナー・エレクト 若 林 紀 男

2003年4月19日(土)
於：大阪国際会議場
ホストクラブ：大阪東ロータリー・クラブ

奉仕の理想

元東京RC

作詞 前田 和一郎

元東京RC

作曲 萩原 英一

奉仕の理想に集いし友よ

御国に捧げん我等の業

望むは世界の久遠の平和

めぐる歯車いや輝きて

永久に栄えよ

我等のロータリー

2003～04年度RIテーマ

手を貸そう



Lend a Hand

国際ロータリー第2660地区

— 2003～2004年度のための —

地区協議会 プログラム

2003年4月19日(土) 於：大阪国際会議場

出席義務者：(2003～04年度 当地区ロータリークラブ)

会長・幹事・S.A.A.・クラブ奉仕・職業奉仕・社会奉仕

青少年奉仕・国際奉仕・WCS・ロータリー財団・米山奨学会

上記委員長 合計11名

9:30～10:00

登録・受付

5階

メインホール

10:00～12:20

本会議

5階

メインホール

司会 中川清孝

開会・点鐘

ガバナー

井上暎夫

国歌斉唱

ソングリーダー

砂原和彌

ロータリーソング「奉仕の理想」

ソングリーダー

砂原和彌

開会の挨拶

地区協議会実行委員長

村田吉弘

歓迎の挨拶

ホストクラブ会長

岩橋貞雄

来賓およびリーダーの紹介

ガバナー・エレクト

若林紀男

出席報告

登録委員長

山本武男

次年度の方針

ガバナー・エレクト

若林紀男

講演「21世紀の経営倫理について」

哲学者

梅原猛氏

12:20～13:10

昼食

※昼食は別会場にて

13:20～14:50

※部門別協議会参照

14:50～15:05

※本会議会場へ移動

15:05～16:00

本会議

2004年国際大会について

国際大会実行委員会 委員長

近藤雅臣

総括

ガバナー・エレクト

若林紀男

所感

ガバナー

井上暎夫

閉会挨拶

地区協議会実行副委員長

萱村康哉

ロータリーソング「手に手つないで」

ソングリーダー

砂原和彌

閉会・点鐘

ガバナー

井上暎夫

部 門 別 協 議 会

13:20～14:50

部門別	会 場	リ ー ダ ー	サ ブ リ ー ダ ー
会長部門	12階 特別会議場	ガバナー・エレクト 若林 紀男 (大阪東)	次年度地区代表幹事 小中 義博 (大 阪 東) 次年度財務委員長 林 恭造 (大 阪 東)
幹事 S.A.A.部門	10階 1003号室	地区代表幹事 矢橋 弘嗣 (千 里)	ガバナー補佐 表 康之 (東大阪東) 地区幹事 川上 浩邦 (吹 田) 次年度地区副代表幹事 盛田 三五 (大 阪 東) ON TO OSAKA(KANSAI) 丹羽 一郎 (大 阪 東)
クラブ奉仕 職業奉仕部門	10階 1001～1002号室	次年度クラブ奉仕部門 顧問パストガバナー 戸田 孝 (八 尾) 次年度職業奉仕部門 顧問パストガバナー 寺田 和之 (大 阪)	次年度クラブ奉仕委員長 井上 家昌 (東大阪東) 次年度拡大・増強委員長 住吉 正敏 (大阪城東) 次年度情報・広報委員長 早嶋 茂 (大 阪) 次年度職業奉仕委員長 辰野 元彦 (大 阪 東)
社会奉仕部門	12階 1202号室	次年度社会奉仕部門 顧問パストガバナー 松本 良諄 (大阪東)	次年度社会奉仕委員長 古澤 照男 (豊 中 南)
青少年奉仕 部門	10階 1004～1005号室	次年度青少年奉仕部門 顧問パストガバナー 大森 慈祥 (茨 木)	次年度青少年活動委員長 北山 孝和 (大阪中央) 次年度ローターアクト委員長 石田 肇 (東大阪東) 次年度インターアクト委員長 松林 寛 (大 阪 南)
国際奉仕 WCS部門	10階 1009号室	次年度国際奉仕部門 顧問パストガバナー 柏木 尚 (豊 中)	次年度国際奉仕委員長 八木 頼夫 (大 阪) 次年度世界社会奉仕委員長 長澤 利治 (茨 木) 次年度青少年交換委員長 近藤 眞道 (高 槻 西)
ロータリー 財団部門	10階 1006～1007号室	次年度ロータリー財団部門 顧問パストガバナー 中野 董夫 (大阪阪南)	次年度ロータリー財団委員長 居相 英機 (八 尾) 次年度財団情報・増進委員長 山本 公平 (大 阪 北) 次年度財団奨学金・学友委員長 佐藤 俊一 (大阪鶴見) 次年度研究グループ交換委員長 野村 浩司 (大阪そねぎ) 次年度財団人道的補助金委員長 中西 藤和 (大阪梅田)
米山奨学会 部門	10階 1008号室	次年度米山奨学部部門 顧問パストガバナー 熊澤 忠躬 (守 口)	次年度米山奨学部委員長 山本 和雄 (大阪なにわ)

哲学者 ^{うめ}梅 ^{はら}原 ^{たけし}猛氏 プロフィール

梅原猛氏は実存哲学に関する長年の研究を起点に、常に人間を探究する姿勢の下、鋭い直観と深い洞察に基づき、日本精神史、古代史、文学、宗教等の幅広い分野にわたり独創的な思索を展開し、「梅原日本学」と呼ばれる独自の学問体系を確立するなど、日本文化の総合的な研究の発展に大きく貢献されている。

また、京都市立芸術大学教授及び同学長を歴任され、幅広く後進の育成にも尽力されるとともに、文化功労者として多方面に活躍されるなど、学術文化の向上に大きく寄与されている。今年1月に出版された著書『梅原猛の授業 道徳』は、「いま、日本の道徳はどうなっているか」「道徳の根源をどこに求めるか」日本の伝統の宗教である仏教を中心にして、儒教、神道、キリスト教を取り入れた“道徳”を、現代日本の社会の要求に応じて説いたもので、ベストセラーとなった。

(大正14年生まれ)

出席者名簿

ガバナー		井上 暎 夫 (千里)
パスト・ガバナー	国際大会実行委員会委員長	近藤 雅 臣 (千里)
パスト・ガバナー	クラブ奉仕・職業奉仕部門 リーダー	戸田 孝 (八尾)
パスト・ガバナー	社会奉仕部門 リーダー	松本 良 諄 (大阪東)
パスト・ガバナー		古田 敬 三 (大阪)
パスト・ガバナー		廣瀬 勘一郎 (大阪西南)
パスト・ガバナー	青少年奉仕部門 リーダー	大森 慈 祥 (茨木)
パスト・ガバナー	ロータリー財団部門 リーダー	中野 董 夫 (大阪阪南)
パスト・ガバナー	米山奨学会部門 リーダー	熊澤 忠 躬 (守口)
パスト・ガバナー		中川 章 三 (大阪城南)
パスト・ガバナー		吉川 謹 司 (東大阪東)
パスト・ガバナー	国際奉仕・WCS部門 リーダー	柏木 尚 (豊中)
パスト・ガバナー	クラブ奉仕・職業奉仕部門 リーダー	寺田 和 之 (大阪)
ガバナー・エレクト	会長部門 リーダー	若林 紀 男 (大阪東)
ガバナー・ノミニ		宮田 宏 章 (大阪北)
次年度RI100年祭担当		瀧川 紀 征 (吹田西)
会長部門 サブリーダー		小中 義 博 (大阪東)
会長部門 サブリーダー		林 恭 造 (大阪東)
幹事・S.A.A.部門 リーダー		矢橋 弘 嗣 (千里)
幹事・S.A.A.部門 サブリーダー		表 康 之 (東大阪東)
幹事・S.A.A.部門 サブリーダー		川上 浩 邦 (吹田)
幹事・S.A.A.部門 サブリーダー		盛田 三 五 (大阪東)
幹事・S.A.A.部門 サブリーダー		丹羽 一 郎 (大阪東)
クラブ奉仕・職業奉仕部門 サブリーダー		井上 家 昌 (東大阪東)
クラブ奉仕・職業奉仕部門 サブリーダー		住吉 正 敏 (大阪城東)
クラブ奉仕・職業奉仕部門 サブリーダー		早嶋 茂 (大阪)
クラブ奉仕・職業奉仕部門 サブリーダー		辰野 元 彦 (大阪東)

出 席 者 名 簿

社会奉仕部門 サブリーダー	古 澤 照 男 (豊 中 南)
青少年奉仕部門 サブリーダー	北 山 孝 和 (大 阪 中 央)
青少年奉仕部門 サブリーダー	石 田 肇 (東 大 阪 東)
青少年奉仕部門 サブリーダー	松 林 寛 (大 阪 南)

国際奉仕・WCS部門 サブリーダー	八 木 頼 夫 (大 阪)
国際奉仕・WCS部門 サブリーダー	長 澤 利 治 (茨 木)
国際奉仕・WCS部門 サブリーダー	近 藤 眞 道 (高 槻 西)
ロータリー財団部門 サブリーダー	居 相 英 機 (八 尾)
ロータリー財団部門 サブリーダー	山 本 公 平 (大 阪 北)
ロータリー財団部門 サブリーダー	佐 藤 俊 一 (大 阪 鶴 見)
ロータリー財団部門 サブリーダー	野 村 浩 司 (大 阪 そ ね ぎ き)
ロータリー財団部門 サブリーダー	中 西 藤 和 (大 阪 梅 田)
米山奨学会部門 サブリーダー	山 本 和 雄 (大 阪 な に わ)

次年度ガバナー補佐	会長部門	道 満 隆 (豊 中 - 大 阪 国 際 空 港)
次年度ガバナー補佐	会長部門	瀧 川 紀 征 (吹 田 西)
次年度ガバナー補佐	会長部門	奥 嘉 隆 (交 野)
次年度ガバナー補佐	会長部門	泉 寛 治 (八 尾 中 央)
次年度ガバナー補佐	会長部門	宮 田 宏 章 (大 阪 北)
次年度ガバナー補佐	会長部門	小 林 雄 友 (新 大 阪)
次年度ガバナー補佐	会長部門	葛 井 重 雄 (大 阪 南 西)
次年度ガバナー補佐	会長部門	松 井 隆 雄 (大 阪 天 王 寺)

次年度地区財務委員会	委員長	林 恭 造 (大 阪 東)
次年度地区財務委員会	会計	高 野 正 康 (大 阪 東)

次年度社会奉仕委員会	副委員長	津 田 宏 (大 阪 梅 田 東)
次年度社会奉仕委員会	副委員長	若 宮 邦 弘 (大 阪 天 王 寺)
次年度ロータリー財団委員会	副委員長	横 山 守 雄 (大 阪 中 央)

次年度地区幹事

小 中 義 博 (大 阪 東)	瀬 戸 孝 太 郎 (大 阪 東)	吉 川 邦 英 (大 阪)
盛 田 三 五 (大 阪 東)	藤 本 和 茂 (大 阪 西 南)	片 山 勉 (大 阪 東)
高 野 正 康 (大 阪 東)	山 本 博 史 (大 阪 南)	阪 口 善 雄 (大 阪 北)
青 井 隆 (大 阪 東)	塩 谷 眞 治 (大 阪 東)	中 許 忠 和 (大 阪 東)
中 川 宏 一 (大 阪 東)	土 井 孝 夫 (大 阪 東)	林 恭 造 (大 阪 東)
丹 羽 一 郎 (大 阪 東)	堀 隆 (大 阪 東)	松 本 進 也 (大 阪 北)

次々年度地区幹事

米 谷 伸 行 (大 阪 北)

次年度ロータリーの友地区委員

瀬 戸 孝 太 郎 (大 阪 東)

出席者名簿

番号	部門		会 長	幹 事	S. A. A.	クラブ奉仕
	クラブ名					
1	大 東	東	北 村 正 汎	榎 本 光 博	谷 中 清 孝	石 丸 康 一
2	大 東 中 央	東	中 島 勤	大和田 雅 江	内 田 美和子	若 狭 一 夫
3	東 大 阪	東	松 田 重 夫	片 岡 豊	石 橋 英 司	松 本 駿 二
4	東 大 阪 中 央	東	岡 田 早 苗 三	鈴 木 勝 俊	三 木 武 志	大 畑 齊
5	東 大 阪 東	東	常 楽 寺 喜 雄	赤 松 慶 亮	芳 田 至 弘	溝 畑 正 信
6	東 大 阪 み ど り	東	山 片 重 房	山 本 朋 子	井 上 善 博	浜 田 秀 雄
7	東 大 阪 西	東	吉 田 武 彦	藤 原 史 嗣	松 畑 秀 信	宮 永 憲 一
8	枚 方	東	磯 田 隆 平	橋 本 茂 夫	家 高 健 志	神 田 正 昭
9	枚 方 一 く ず	東	吾 郷 泰 廣	小 北 英 夫	若 林 尚 史	宮 田 明
10	茨 木	東	簡 仁 一	掛 谷 建 郎	秋 山 勤	中 西 勝 孝
11	茨 木 東	東	塩 谷 嘉 太 郎	堀 裕	岡 市 正 規	高 見 孝
12	茨 木 西	東	中 西 隆 英	橋 本 善 治	西 尾 忠 夫	田 村 英 明
13	池 田	東	藤 川 隆 治	森 繁 子	吉 田 昌 弘	岸 上 宏 司
14	池 田 一 く れ は	東	森 茂 寛	成 田 太 賢	新 田 耕 平	三 好 洋 二
15	門 真	東	吉 村 光 弘	八 木 誠	馬 場 絢 子	興 津 成 実
16	交 野	東	松 本 道 廣	田 中 有	溝 辺 明 夫	平 田 至 宏
17	箕 面	東	谷 川 貢 二	芝 野 弘 三 郎	中 井 満 洲 男	吉 川 真 嗣
18	箕 面 中 央	東	奥 山 淳 三	森 本 光	長 野 純 二	野 村 正 勝
19	守 口	東	芦 谷 光	中 道 均	篠 崎 満 信	秋 山 憲 敏
20	守 口 イ ブ ニ ン グ	東	樋 上 重 夫	大 島 栄 子	芦 田 八 郎	後 藤 正 信
21	寝 屋 川	東	神 戸 昭 典	清 水 茂 實	畑 山 勇	山 本 菊 栄
22	寝 屋 川 東	東	村 川 武 征	西 邨 智 雄	浅 井 勝 彌	松 本 勉
23	大 阪	東	岸 本 忠 三	嘉 納 秀 一	堀 井 良 殷	四 方 修
24	大 阪 阿 倍 野	東	藤 田 誠 一 郎	山 下 義 一	和 田 弘 堂	岡 野 文 雄
25	大 阪 ち ゃ や ま ち	東	松 本 雅 郎	前 田 要 之 助	戸 田 和 孝	高 橋 定 郎
26	大 阪 中 央	東	川 崎 壽	古 谷 裕 子	足 立 陽 一	高 橋 亜 紀 央
27	大 阪 堂 島	東	川 本 幹 治	前 川 久 寿	藤 木 成 忠	仲 庭 裕 明
28	大 阪 フ レ ン ド	東	稲 山 京 子	高 木 延 子	岡 田 一 惠	安 井 稔
29	大 阪 阪 南	東	代理 小 山 隆 三	谷 野 清 孝	川 口 雄 康	渡 部 泰 夫
30	大 阪 東	東	檜 崎 正 博	板 倉 信 司	川 村 貞 行	山 本 武 男
31	大 阪 東 淀	東	横 田 喜 久 雄	堀 内 清 隆	小 澤 アキ子	
32	大 阪 平 野	東	地 久 里 昌 廣	植 村 宏 一 郎	喜 多 敏 明	又 吉 宗 治
33	大 阪 本 町	東	岸 本 太 一	坂 中 良 郎	宮 田 直 樹	松 村 榮 一
34	大 阪 イ ブ ニ ン グ	東	植 田 喜 保 一	廣 森 達 郎	吉 田 研 一	藤 本 加 代 子
35	大 阪 城	東	長 友 滋 尊	井 上 教 規	石 田 勝 三	内 海 浩 之
36	大 阪 城 南	東	上 敏 郎	北 恭 一	山 口 寛	新 垣 善 男
37	大 阪 城 東	東	下 地 常 博	中 嶋 進 治	岡 本 浩	角 野 隆 史
38	大 阪 柏 原	東	高 井 康 伊	大 谷 隆 英	西 岡 哲 也	松 原 貞 一
39	大 阪 北	東	鴻 池 一 季	山 本 潤	橋 口 文 四 郎	松 本 進 也
40	大 阪 北 梅 田	東	白 倉 孝 雄	門 脇 義 房	高 石 英 二	中 條 雅 嗣
41	大 阪 御 堂 筋	東	岩 津 陽 介	脇 隆 俊	池 原 哲 男	中 川 憲 育
42	大 阪 南	東	國 分 紀 一	横 尾 国 治	北 川 哲	武 田 太 郎
43	大 阪 中 之 島	東	早 瀬 道 圓	小 林 俊 明	井 戸 本 泰 次	犬 飼 直 之

職業奉仕	社会奉仕	青少年奉仕	国際奉仕	世界社会奉仕	ロータリー財団	米山奨学会
清水修	大東弘	川上隶広	田中啓之	中村眞也	梶川靖夫	小松崇
橋本康夫	峠松次	岩本静江	柿木清司		樋口光弘	川西津音夫
吉村光央	立岡寛次	熊本博	竹中照次	山本滋国	阪本義樹	三宅辰一
中村与志夫	森豊一	小林成共	前田實也	有江健	畑延次	福岡康民
山田隆教	朝田全紀	広田甫	天野正亮	山村安德	岡田耕治	小林一成
萱村隆司	岡本光夫	松浦利英	石井卓郎	北井孝彦	土井健一	城賀本齐
中西英二	酒井三雄	浜広勲	石津良行	松尾治	高田富三男	東野公一
津田公男	今仲弘	門前武彦	堀岡晃	宮田久嘉	三村雄太郎	小野俊文
三木彰	上山芳次	泉谷楠夫	山中卓	小松正人	岡山量正	山口尚志
中江達雄	松尾康弘	坂井正純	山口和雄		橋本秀雄	久保義誓
竹村ルミ子	篠賀章	中尾巖	南野真也		松尾泰博	増本猛
赤井ムツエ	加藤英子	加藤まき子	赤田邦男	須川就三	清水達也	宮里唯子
山口正之	吉岡崇	北林安興	山中祥光	徳永昭夫	柴田安博	奥村昌也
谷田史朗	溝口正孝	高木慎二	正岡哲彦		長嶋貞孝	藤原進
宇治忠	末田正郎	藤木幸雄	三林信彦		安宅外美雄	蘆田克己
石田俊夫	谷島淳郎	氏原要介	加地脩郎		木下久則	雨田正寛
山下恵司	尾上克雅	遠山雅昭	的場年昭		陶柳之介	三浦寛
大塚英太郎	村田英明	片桐正安	田遠正昭		打田耕三	柚誠二
石谷隆一	小西豊和	高橋敏朗	家村武秀		辻村弘	田代精作
向山唯己	山本覺	徳永幸彦	巽誠一郎		小林澄子	永井健太郎
石山憲雄	白井祥一郎	奥本義昭	穂積幸男	前田澄雄	田邊和宏	木村陸朗
川尻昌之	大嶽修	白石文雄	井上悠介	樋口宗廣	小林道明	濱田博章
辻本朝男	石川正	早嶋茂	更家悠乃		松澤佑次	大津隆文
大和正代	辻久美子	久留島悦子	辻川圭乃		中塚昌宏	北村幸郎
檜垣誠次	葛尾都志樹	井上浩一	河野耕作	前田嗣吉	山下勝	大塚豊
上田祐嗣	伴一郎	松田武士	小林惇三	上内清彦	南川博茂	東正武
川村俊明	桑田圭司	片岡亥一郎	中島武		道上惠三郎	横山利夫
奥野富美子	三上美智子	高田利美	鶴留亮一		柴山泰範	朝比須峯子
伯耆徳武	近藤勲	津崎正幸	前山克己	前田忠蔵	能口武雄	笠井勝巳
萱村康哉	砂原和彌	山本嘉一	藤野洋一	大橋孝夫	太田重彦	河上英夫
望月亮	山岡俊裕	辻西勢治	大澤一雅		橋川淳一	福味正俊
平井敬子	大江芳次郎	吉村昭志	西田博司	片岡博文	三野久光	平田幸雄
岸孝太郎	宮次重郎	樋野忠志	岡田俊作		櫻井勲	平田良三
浦川義輝	藤江正謹	小松大二	三木優	坪内敏剛	西野博子	松浦純男
西本晴男	田中俊男	布施裕	和田眞実	窪田映	妙中幹男	辻中明一
渡邊邦雄	西谷雅之	西村淳	岡倉三郎		朝倉良	佐々木正治郎
有山茂	松波明宏	北浜貞雄	佐々木成人		辻谷弘	井土賢一・木内健二
石崎昭	大橋秀樹	岸野友美子	鍛冶宗三郎		安田千恵子	隅谷尚典
伴昭秀	松田英三郎	河村禮郎	黒田恭年	小林豊	島田誠次郎	八木一雄
後藤基成	伊藤長範	和氣主	細田喜代司		徳岡浩二	青山快玄
安部潤一	森真二	箕手孝次郎	荒川雅行		宮岸隆	山田耕司
岸田功秋	三原幸二	松林寛	横山順治郎	錦織達郎	木村芳樹	成瀬悟夫
渡辺哲	北村哲夫	中道正伸	梅原豊和		針谷紘一	高島凱夫

出席者名簿

番号	部門		会 長	幹 事	S. A. A.	クラブ奉仕
	クラブ名					
44	大 阪 難 波		吉 田 尚 司	山 本 秀 利	荻 原 奨	高 島 徳 人
45	大 阪 な に わ		川 戸 偉 考	北 澤 高 志		佐 伯 崇 邦
46	大 阪 南 西		南 克 昌	藤 川 健 一 郎	小 森 敏 鑑	宮 井 康
47	大 阪 西		大 富 國 正	小 川 哲 男	中 川 泰 伸	北 村 寅 雄
48	大 阪 大 手 前		田 村 和 之	徳 崎 善 信	中 村 不 二	下 村 敏 夫
49	大 阪 大 淀		大 西 洋 一 郎	吉 田 悦 治	杉 村 章 二	畑 守 人
50	大 阪 リ バ ー サ イ ド		高 田 知 彦	藪 野 功 勝	柿 本 登	垣 内 康 弘
51	大 阪 咲 洲		竹 川 公 三	高 松 伸 伍	上 田 剛	牧 野 伸 顕
52	大 阪 西 北		肥 田 昭	砂 川 秀 雄	瀬 田 川 昭 俊	平 林 武 昭
53	大 阪 西 南		大 谷 透	上 田 直 樹	品 川 潔	森 下 美 恵 子
54	大 阪 船 場		渡 辺 忠 之	富 本 亨	林 怡 久 雄	俣 野 富 美 雄
55	大 阪 心 斎 橋		津 乘 広 通	永 通 明 温	西 村 公 男	倉 田 能 達
56	大 阪 城 北		山 田 英 男	角 本 浩 一	森 本 匡 昭	廣 江 満 男
57	大 阪 そ ね ざ き		岩 本 洋 子	菅 原 真 一	高 浪 宣 昭	岡 本 孝 子
58	大 阪 住 之 江		松 井 信 博	松 田 信 廣	斉 藤 保 夫	井 川 重 典
59	大 阪 住 吉		板 垣 美 一	川 上 富 清	富 家 丈 雄	早 原 瑛
60	大 阪 天 満 橋		井 戸 幹 雄	奥 崇	浦 谷 朗	三 谷 滋 伸
61	大 阪 天 王 寺		杉 本 源 衛	辻 敏 郎	西 埜 毅	金 子 裕
62	大 阪 東 南		下 宮 義 弘	松 田 清 司	高 木 正 一 郎	杉 浦 勝 昭
63	大 阪 鶴 見		田 中 信 明	林 成 志	谷 康 平	賀 屋 雅 雄
64	大 阪 梅 田		中 西 正 七	佐 藤 成 憲	平 山 博 史	森 康 次
65	大 阪 梅 田 東		革 嶋 恒 徳	森 田 耕 造	山 村 幸 久	山 本 毅
66	大 阪 う つ ぼ		藤 井 健 蔵	片 見 富 士 夫	奥 野 秀 郎	斉 藤 隆 二
67	大 阪 淀 川		平 田 達 男	高 地 健	杉 本 忠 博	笠 本 義 嗣
68	大 阪 ユ ニ ハ ー サ ル シ テ ィ ー		秋 山 千 尋	吉 田 正 信	川 添 智	菊 泰 仁
69	千 里		小 谷 泰	奥 谷 英 夫	高 野 久 輝	田 橋 賢 士
70	千 里 メ イ プ ル		長 野 賢 二	山 田 達 也	池 田 進	光 岡 史 富
71	摂 津		川 西 靖 裕	神 田 保 廣	森 野 靖 峯	妻 野 光 則
72	四 条 曙		山 口 愛 彦	三 原 初 男	大 平 宏 美	清 水 勝 美
73	新 大 阪		松 川 雅 典	生 尾 雅 美	向 井 秀 史	辻 本 嘉 助
74	吹 田		木 村 雄 次 郎	吉 田 充	井 上 陽 二	夜 久 亢 宥
75	吹 田 江 坂		今 村 啓 志	庄 瀬 寛	延 秀 恵	鳥 辺 甚 吉
76	吹 田 西		宮 川 藤 一 郎	石 崎 克 弘	坂 口 道 倫	尾 家 亮
77	高 槻 東		清 水 利 男	川 面 智 義	小 山 彰 夫	白 石 俊 廣
78	高 槻 西		川 村 俊	渡 辺 一 光	瀧 井 理	辻 野 眺 一
79	高 槻 中		長 谷 川 博 之	栗 田 忠 一	高 木 哲 男	高 橋 求 夫
80	豊 中 南		澤 木 政 光	古 澤 照 明	村 司 辰 朗	内 本 晴 夫
81	豊 中 南		宮 内 敏 光	岡 本 眞 弘	西 口 定 雄	武 田 矩 夫
82	豊 中 - 大 阪 国 際 空 港		中 埜 肇	上 西 利 三	堀 口 尚 夫	寺 村 幸 雄
83	豊 中 千 里		高 橋 貞 夫	小 寺 守 雄	浅 野 久	西 田 尚 道
84	八 尾 中 央		大 槻 美 佐 夫	奥 田 勝 啓	中 川 廣 次	後 藤 孝 吉
85	八 尾 中 央		東 口 晏 巳	片 岡 基 博	森 重 治	西 岡 成 典
86	八 尾 東		真 野 鐵 生	楠 瀬 允 教	鳥 居 英 之	藤 田 勇

職業奉仕	社会奉仕	青少年奉仕	国際奉仕	世界社会奉仕	ロータリー財団	米山奨学会
千賀莞尔	井上正典	植松一良	鄭則之		谷口勉	久保勇
植田順三	伯井守	吉川仁育	森正博	時枝博司	山田繁治	植垣武司
奥村節子	大嶋栄	小池廣子	高橋裕二	光満寛守	田口史郎	木村聡
上野義治	岩井孝明	丹生昭教	高木寛		高木嗣郎	井本一幸
山岡桂造	小原敏明	中林邦友	福井教男	三木元昭	佐藤良和	高折忠太
村岡正啓	井原悦司	八頭司享	大石正守		島信彦	武富貞敏
神崎友次	松井素子	野間雅伸	清水英文		藤井武治	瓦谷泰浩
深川護	本多至成	成山肇	藪野洋	荒石義一郎	西村敏之	松本功
木村英夫	井爪民雄	三村恵造	中村光信		桂直久	小林則夫
高谷晋介	増田康次	笠井文雄	池見敏幸	四宮孝郎	濱岡正典	小田眞弘
小島常男	山本雅之	今泉忠亮	袋布要一郎		西尾隆善	齋藤憲司
小嶋秀夫	廣瀬雄二郎	岩佐厚	鴻野精彦	芦邊康徳	鈴木務孝	石川彰一
松本良造	古森浩	岩田龍三	久岡敏博	今井和男	上堀博三	大岡弘治
竹尾愛	田中将	革嶋祐理子	寺本美津子	柳田恒明	村上恭豊	大谷久仁雄
辻本泰直	乘光孝明	出口統士	大河内俊之	池田淳八	田邊千尋	東光宏
原野圭司	足立菅治	渡部富士雄	片上淑子		山本嘉治	立花幹夫
松宮清隆	重里國磨	永江溥	中川政照		木村忠夫	衣斐孝雄
武田純三	吉岡宏之	新屋正富	津留正孝	高森隆	松井隆雄	吉田進
森脇隆	大山文雄	小宮秀範	三宅一嘉	榛木登司雄	野崎瞭一	朝田俊孝
田澤洋一	石川治均	武市智寿	織田治久		高橋正明	横山助光
大谷英司	内海閑一郎	澤田育治	土田喜和		西村武	和田達也
後藤洋治	池田正英	横井省吾	山崎幸三		市川寛城	岡稔
村上正人	植田庸子	的場勝彌	柴本幸次		豆村賢治	赤坂信義
平野忠夫	杉田幸視	津本清次	岡田義昭	磯田欣二	西田良平	幸前哲郎
柴田龍彦	平野久美子	森本良嗣	嶋田護		西村好夫	斧原邦夫
岡本弘	藤井克彦	畑崎利明	藤満宣夫	城野政弘	粉川雅至	神前俊彦
柳原健治	高尾修	高島照夫	松田親男	久保隆夫	水野薫	相原正雄
山内久生	三好一則	西田文夫	和泉慎次	疋田誠治郎	飯室正樹	小林靖之
田村成明	平井正雄	折口秀規	中川法政		木村慎一郎	山内紀之
横山洋一郎	片岡重裕	大橋融	打味俊偉		菅本憲市郎	中川建司
上野貞夫	井村卓治	北野龍二	福室忠正	豊谷久仁子	新田義興	淀井満福
米谷正夫	北村康栄	片桐武彦	水谷善博	吉澤欣一	大井清	西上博幸
吉田一雄	玉城明	青木建雄	家村武志	津田守	井伊圭一郎	大藤辰弘
堀出政宏	中村進一	大西滋	西田直弘		古賀教一郎	生駒俊雄
村上元昭	近森信人	桐越功	齊藤昇男	光本賀一	北田他実夫	堀江義明
片山直	白神正夫	西井忠義	森本茂	大江佳典	高津嘉夫	河野通貞
黒河洋	次家信紘	門宏明	矢口正登	辻正次	米田真	丸山進
山本榮	長谷川龍司	二井清治	八田昌三		坂本英一	鳥居則成
尾形理一	齊城正之	木本亮介	新谷安徳	濱田英機	藤原明	大久保博泰
岡卓爾	五條房巳	甚田倫弘	樹下行三		笹山利雄	藤原安雄
松村匡浩	鈴木脩弘	片桐正信	田中健一	黒田克己	横井憲二	吉田義行
山倉登	廣瀬僖計	干場源太	林明雄	山田正雄	福家宏	中井敬和
増田潔	桑増秀	辻吉和	川密真	池田吉貴	森下慶治	原田隆光

ホスト・大阪東ロータリークラブ

地区協議会実行委員会

会	長	岩橋 貞雄	副S. A. A.	松本 昭	
委	員	村田 吉弘	〃	西村 貞一	
副	委	萱村 康哉	会	計	石川 昌司
幹	事	大森 富夫	ソングリーダー	砂原 和彌	
S. A. A.		中川 清孝	地区幹事	片山 勉	

委員会	委員長	委員 (*印は副委員長)
総務 プログラム	塩谷 眞治	*土井孝夫、石田豊和、前岡英一、中川宏一、大橋孝夫 玉井啓悦
会場	吉永 深	*樋口武英、北川 勉、中島博司、瀬戸孝太郎
登録・受付	山本 武男	*堀 隆、井上雅晴、板倉信司、草尾光一、 宮里武司、本儀 純
接待・案内	清水 宏一	*青木永光、北村昌幸、倉田裕司、黒田 一、西尾忠朋
記録	中井 梅雄	*田中秀雄、筒井茂治
文献	北川 勝治	*中西 滉、三上教道
会計	石川 昌司	*高野正康
救護	杉浦 嘉功	*黒田知純、春次智三郎

部門別協議会担当委員

部門別	会場	S. A. A.	副S.A.A.	記録
会 長	12階特別会議場	三原 敏彰	小野 徹弥	本田 良介
幹事・S. A. A.	1003	中許 忠和	瀬戸 孝太郎	後藤 武夫
クラブ奉仕・職業奉仕	1001・1002	角羽 善一朗	中川 宏一	佐々木 恭一
社会奉仕	1202	溝手 敦信	遠藤 彰三	鈴木 義孝
青少年奉仕	1004・1005	佐藤 勉	北川 勝治	門田 雅輝
国際・WCS	1009	中西 滉	石田 豊和	中嶋 博信
ロータリー財団	1006・1007	高階 徳彦	片山 勉	小橋 和雄
米山奨学会	1008	森田 豊成	大森 富夫	久保田 芳茂

MEMO

Handwriting practice lines consisting of 25 horizontal dashed lines.

MEMO

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing, spanning most of the page width.

手に手つないで

元東京R.C.
作詞 矢野一郎
作曲

一、手に手つないで つくる友の輪
輪に輪つないで つくる友垣
手に手 輪に輪

ひろがれ まわれ 一つ心に
お、ロータリアン
お、ロータリアン

二、手に手つないで つくる友の輪
輪に輪つないで つくる友垣
手に手 輪に輪

ひろがれ まわれ 世界と共に
お、ロータリアン
お、ロータリアン

1. 道徳の歴史

(1) 江戸時代の商人道徳

日本の庶民は仏教を、武士は儒教の教育を受けた
寺子屋あるいは塾で道徳を学び、合わせて読み書きそろばん、武芸などを学んだ
商人の道徳として心学が流行したが、これは仏教や儒教を総合して、商人に分かりやすく説いたものである。

(2) 明治以後終戦までの道徳

廃仏毀釈によって、仏教は公教育から排除される
しかし日本人の多くは仏教信者であり、家庭においては公教育が教えるのとは別な道徳の基準があったと思う
小学校にある銅像は、楠木正成か二宮尊徳の銅像である
この二つは明治から昭和20年までの日本人の道徳のあり方を象徴している
忠義と勤勉の道徳で、日本は西洋諸国並みの広い豊かな国になった

(3) 戦後の道徳

道徳は公教育ではまったく教えられていない
家庭においても、今まで日本人のバックボーンであった仏教の精神が衰えつつある
それでまったく道徳を信じない人間がどんどん生み出されている
高学歴の人間の相次ぐ不祥事及び落ちこぼれた人間の犯罪など
今は国豊かにして人間の心は大変悪くなっているといわねばならない
これを矯正するためには、もう一度伝統的な仏教や儒教を見直す必要がある

2. 新しい戒律

(1) 殺してはならない

この戒律はキリスト教や回教にもあるが、それらの宗教の戒律は、殺してはならないのは主として同じ神を信じる人々の間のみである
他の神を信じる人間を殺してもよいとはいっていないが、それに対して甚だ寛容である
しかし仏教では、どのような人間も殺してはいけないというばかりか、生きとし生けるものはすべて殺してはいけないという厳しい戒律をもつ

(2) 人のものを奪ってはいけない

この点も仏教のほうが他の宗教よりさらに厳しい

(3) 嘘をついてはいけない

これは他の宗教にもあるが、仏教では二枚舌を使ってはいけないとか、きらびやかな言葉を使ってはいけないなど、いろいろ厳しい規定がある

3. 新しい道徳

- (1) 努力と創造
- (2) 愛と信頼
- (3) 慈悲と畏敬



